

くらしの知恵袋

花火による事故に 気をつけて

花火による事故を 防ぐために

子どもたちの花火遊びは夏の風物詩です。しかし、花火は例年やけどの原因商品の上位。開放的な気分が高まるだけにいつそうの注意が必要です。

●子どもの発達行動とやけど

花火による子どものやけどの報告には、発達行動などに応じた状況のよく似た事例があります。

☆花火を手でつまんだり、握ったり、手のひらで受けたりしてしまふ(1歳に多い)。

☆腕や足に火花がかかってしまふ(1、2歳に多い)。

☆線香花火の火の玉が足に落ちて、やけどする(2、3歳に多い)。

☆他の人がしている花火に体が触れてしまふ(就学前に多い)。

☆花火や火の粉が、衣服や髪の毛に燃え移る(女兒に多い)。

2、3歳児はまだ花火の扱い方がわからないので、持たせるのは危険。扱い方を教えても、そのとおりにできるのはもう少し先です。



4、5歳児は危険に対する認識がありますので、教えれば花火を扱うことができます。しかし、遊びに夢中になるあまり、やけどをしてしまうことがあります。

SFマークを 知っていますか

SFマークは(社)日本煙火協会の安全基準検査に合格した印です。国内で流通する国産・輸入品の花火すべてに付いています。

マーク付き花火の欠陥で事故が起きた場合、対人・対物合わせて最高2億円の賠償がされます。

万一事故になったときは花火の燃えかすや袋を持って販売店に連絡してください。

▼問い合わせ 市民課

(☎) 1855

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

湯国踊り子隊 鬼龍

『湯国踊り子隊 鬼龍』は、市内に居住する4歳から中学生までの子どもが活動するYOSAKOIソーランのチームで、平成13年12月に結成されました。

現在、会員は25人。毎週月・木曜日の約2時間、幌別小学校体育館やしんた21に集まり、鳴子の音を響かせながら踊りの練習に励んでいます。

「練習は大変ですが、大勢の観客の前で私たちの踊りを見てもらった後の充足感が忘れられません」と話すのは、代表の山崎修さん。

「YOSAKOIソーランでは、大きな声と笑顔が大切。引つ込み思案だった子どもでもしつかり自分を表現しようという意欲が生まれるなど、子どもたちの大きな自信になつていくようです。これからも、チームの活動を通して、少



しでもまちの活性化やまちづくりのお手伝いをしていけたらうれいすね」

チームでは、『のぼりべつ豊水まつり』や『むろらん港まつり』など、市内や近郊で開催されるイベントにも積極的に参加し、踊りを披露するとともに、昨年から6月に札幌市で開かれる『YOSAKOIソーランまつり』に出場しています。

昨年初めからチームに参加している田中晴菜さん(青葉小学校6年生)は、「最初は緊張したけど、舞台上立つと緊張感が和らぎ、みんな笑顔で楽しく踊ることができました。これからも元気いっぱい踊り続けたいです」と笑顔で話してくれました。

入会を希望される方は、山崎さん(☎) 1927)までどうぞ。

大きな声と笑顔を忘れずにこれからも元気いっぱい踊り続けたい

